

プロから学んだ技術と成果を糧に 平成28年度みやぎクラフトマン21事業 成果報告会

宮城県内の工業系高校と企業が連携し、ものづくり人材の育成に取り組む「みやぎクラフトマン21事業」の成果報告会が1月20日、東北歴史博物館(多賀城市)で行われた。

同事業は、本年度で10回目を迎え、報告会には、高校生と企業関係者ら100人以上が参加し、村田高等学校や気仙沼市立高等学校など14校の生徒が、本年度に企業や熟練技能者の支援を受けて習得した知識や技能について報告した。

石巻工業高等学校からは、化学技術科の生徒が、高校生ものづくりコンテスト県大会に向け、分析技術者から水の硬度測定技術指導を受けた取組について発表があった。コンテスト本番と同様の手順で作業を行い、技術者から作業中の注意点や改善点について指導を受けた。



アーク溶接の技術講習について発表する第二工業高校の生徒



資格取得による職業意識の向上について発表する白石工業高校の生徒

高校生が熱い火花を散らす 第6回宮城県高校生溶接技術競技大会



競技材に丁寧にやすり掛けをし、開先の加工を行う参加者



審査員が立ち合う中、アーク溶接の競技に挑む参加者



審査員を務めた熟練技術者が、一人一人の作品について講評とアドバイスをした

1月21日、ポリテクセンター宮城県名取実習場(名取市)において、第6回宮城県高校生溶接技術競技大会(主催一般社団法人宮城県溶接協会)が開催された。県内の工業系高校12校の35人の生徒が参加し技を競った。

審査では、仕上がりの精度や見た目の美しさのほか、作業態度や安全意识などが採点された。結果は、団体の部で宮城県工業高等学校が連覇を果たし、個人の部でも同校機械科2年の佐藤力斗さんが優勝した。

最新型エンジンに興奮 仙台高等技術専門校「教材用エンジン」受領式

1月26日、仙台高等技術専門校で、日野自動車株式会社(東京都)と宮城日野自動車(仙台市)から寄贈された最新型エンジンの受領式が行われた。

贈られたのは、2トントラック「日野デュートロ」に搭載されているディーゼルエンジンで、同校の自動車整備科の教材として活用される。日野自動車営業部長は「自動車の電子化が進み、メカニックにはより高度な知識と技術が求められる。最新のエンジンを活用して、みなさんの学習に役立ててほしい」と話した。



受領式で学生に向けてエールを送る築山室長



学生にエンジンの説明をする只野部長(中央)

受領式後、宮城日野自動車の只野勝弘サービスマン部長からエンジンの説明があり、学生は新しいエンジンを間近で見ながら、仕組みなどについて質問した。学生を代表し、感謝の言葉を述べた自動車整備科2年の佐藤さんには、「実際のエンジンは、想像以上に大きく、今まで見たことがないような最新技術が満載で感動しました。仕組みをしっかりと

県内の優れた工業製品6件が新たに認定 第9回みやぎ優れMONO認定式

1月27日、「第9回みやぎ優れMONO認定式」が仙台国際センター(仙台市)で行われた。今回で3製品目の認定となる株式会社プラモール精工(富谷市)など6社の製品が認定され、2009年からスタートしたみやぎ優れMONOの認定は合計47件、43社となった。

有限会社東北工芸製作所(仙台市)は、産業技術総合研究所東北センター(仙台市)との共同による「ナノコンポジットコーティングを付与した高耐久性漆器玉虫塗」で初めて認定された。擦過性、耐候性などを向上させるナノコンポジット技術を応用し、従来の「見て楽しむ漆器」から食洗機にも対応可能な「使っても楽しむ漆器」を実現した。



高耐久性玉虫塗のワイングラスは、G7財務省・中央銀行総裁会議の記念品として採用された



みやぎ優れMONO認定証を受けた6社の代表

目指す企業は大学や研究機関を積極的に活用し、また既に認定を受けた企業も是非、複数の認定獲得に向けて挑戦を続けてほしい」とエールを送った。

東北職業能力開発大学校の学生が ものづくり教育訓練の成果を発表 第15回東北ポリテックビジョン

2月17日と18日、東北職業能力開発大学校(栗原市)で「第15回東北ポリテックビジョン」が開催された。17日に行われた講演会では、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)角田宇宙センターの吉田誠所長が、「ロケット開発：最先端の物づくり」と題し、ロケットの打ち上げの様子や「H-IIロケット」のエンジン開発の裏側などについて、映像を交えながら詳しく紹介した。

さらに、同センターで開発が進められている「H3ロケット」に搭載する新しいロケットエンジンの開発や、国内ベンチャー企業が計画している宇宙事業などについても触れた。吉田所長は、「ロケット開発には、モチベーションを長く保ち

学生は、「加工時間の短縮や安全面の強化など、昨年度のものよりレベルアップを図ることができました。実用化のためにはまだ課題が多く残っているので、先輩に託したいと思います」と話した。

卒業前の内定獲得を目指す 新規高等学校卒業生第2回就職面接会

2月16日、「新規高等学校卒業生第2回就職面接会」が、AER(仙台市)で開催された。今年3月に県内



90秒間のPRタイムで会社の特色を説明する、採用担当者



就職面接会は和やかな雰囲気で行われ、生徒と企業が互いに意見を交わした

の高校を卒業する生徒を対象で、23人の高校生と県内企業など38社が参加した。生徒は、参加企業の採用担当者から自社PRを聞いた後に、興味を持った企業のブースで予備面接を受けた。この日に面接を受けた数社の中から、就職を希望する企業を検討し、後日あらためて本面接に応募する。

面接会に参加した電気設備工事会社の採用担当者は、「業界は、常に人手不足が続いている。今日の面接会で電気工事に興味がある若い人材を確保し、ゆつくりと育てていきたいです」と話した。参加した生徒は、「今日は



講演する吉田所長。最先端の技術が詰まったロケットエンジン開発の魅力を紹介した



地元の給食センターの声をもとに開発した「自動リング加工機II」。ターンテーブルに載せられたリングの皮をむき、6つにカットする